



(JA全中会長)

中家徹

杉良太郎

(歌手・俳優)

JAが、地域になくても ならない組織になるために

国内外で長年にわたり福祉活動を行い、“日本農業の応援団”を自認する、歌手で俳優の杉良太郎さん。JAが地域になくてもならない組織になるために何が必要か、閉塞感が漂う社会でどのような役割を期待されているか、中家徹会長と語り合いました。

写真：高松英昭

再認識された協同組合 相互扶助はJAの基本理念

中家 杉さんは、全国の刑務所を慰問・視察したり、被災地でボランティア活動をしたりしています。国外では私財を投じてベトナムで恵まれない境遇にある子どもたちを支援しています。近年、「自分だけ良ければいい」「お金さえもうかればいい」と、他者を顧みない空気がまん延している中で、「本当に大事なものは何か」を考えさせられますね。

杉 刑務所の慰問は、歌手デビュー前の15歳のとき、歌謡学校の先生と一緒に行ったのがきっかけです。今は法務省の特別矯正監として視察をしています。もうすぐ60年になります。福祉活動はほかにも取り組んでいますが、幸い芸能生活は軌道に乗せることができましたので、私の人生に課せられた命題だと思って、自然体で取り組んでいます。東日本大震災では、私がカレーライスを作ったり、妻の伍代夏子が豚汁を作ったりして、避難所で振る舞いました。風評被害で農産物が売れ

.....新春対談.....

なくて困っているJAもありましたので、そこからたくさん買って使うこともありました。

中家 震災後は「絆^{きずな}」という言葉に代表されるように、地域での助け合いや相互扶助の精神を見直す風潮が生まれました。これらの精神はJAの基本理念でもあり、私もますます大事にしなければならぬと再認識しました。

杉 困ったときはお互いさまですから、相互扶助の精神は大切にしたいものです。熊本地震では市民が刑務所に避難してきました。刑務所の武道場は畳が敷いてあるので仮眠でき、水、薬、食料備蓄もあり、医師もいます。避難するのに必要な物がそろっていて、これを機に全国の刑事施設は避難所に指定されました。平時は気づきませんが、私たちの社会は支え合う潜在的な力があるのだと思います。

JAも災害時に物資を提供したり、ボランティア活動をしたりしているそうですが、残念なことに、一般の方にはあまり知られていないでしょう。JAに関するニュースは、農産物の輸入問題や国内の農業政策に関連した、政府に要請するような内容が目立っています。JAの成り立ちや役割、取り組みを理解して

もらうなら、もっと積極的に情報発信するべきではないでしょうか。

中家 そうですね。災害時にはJAの施設を避難所として提供できるように、自治体と協定を結んでいるJAも全国にたくさんあります。また、2016年には「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。これを機に「協同組合とは何か」「JAとは何か」をテーマに情報発信を強化しているところです。

農業を柱に地域へ貢献 健やかな次世代を育てたい

中家 杉さんは各地で農産物を買ったりPRしたりして、JAや農業者にとっては大変心強い応援団です。しかも、自らも野菜を栽培するなど、農業への造詣が非常に深いですよ。

杉 和歌山県特産の梅干しの価格が低迷していた時期ですが、青梅を買って梅干しや梅酒をつくるなど、贈り物にしていました。4年前には和歌山県紀の川市に、桃園を設けました。名前は「杉良太郎・伍代農園」で、収穫した桃を友人に贈って喜ばれています。

父の故郷である兵庫県南あわじ市では“昔



なかや・とおる

1949年和歌山県生まれ。2004年JA紀南組合長。2012年JA和歌山中央会・各連共通会長。2012年JA全中理事。2013年JA紀南会長。2014年JA全中副会長。2017年8月から現職。

すぎ・りょうたろう

1944年兵庫県神戸市生まれ。1965年歌手デビュー。『遠山の金さん』など多数のテレビドラマに出演。外務省の日本ベトナム特別大使および日・ASEAN特別大使を務めるほか、法務省の特別矯正監として刑務所改革に尽力。厚生労働省の肝炎総合対策推進国民運動特別参与とさまざまな活動に取り組んでいる。



消費者とともに日本の食と農、
地域を守っていきます。

新春

ながらのスイカ”を復活させて、特産化に挑戦しています。子どものころに「皮が薄くて切ると良い香りが広がり、滑らかで舌触りの良いスイカ」を食べたんですよ。あのスイカをもう一度食べたい、みんなに食べてもらいたいと思い、種を探し当てて地元の農家に作ってもらっています。品評会を開き、仕上がりの良いものを「南あわじ良太郎西瓜」に認定しています。別の品種もあって、「夏子」と名付けています。良太郎と夏子の“夫婦スイカ”です。

千葉県成田市ではスイカやサツマイモ、都内では温州ミカンやレモンを鉢で育てています。青森ではサクランボを作っていますよ。

中家 大スターとは思えないほど、いろいろ取り組んでいますね。農業振興はJAの最も重要な役割ですが、事業を通じて地域社会を守るのもJAの役目です。例えば、買い物に不自由している住民向けの移動購買車の運行や、ガソリンスタンドなどライフラインの維

持です。JA職員や協力してくれる組合員が、お年寄りの家を回って安否確認もしていますね。

杉 お年寄りへの声かけや、お弁当を届けるのは、社会情勢に合った素晴らしい貢献です。群馬県の川場村は高齢化が進んでいますが、全国でも医療費が低いことで注目されています。なぜお年寄りが元気なのかというと、農業で足腰は鍛えているし、道の駅で野菜

を売り、稼いだお金は自分の孫たちに使うことができる。それが生涯現役でいるための力の源となっているのです。そんなお年寄りをJAが支えてくれたらと思います。

中家 JAグループでは「JA健康寿命100歳プロジェクト」をはじめ、高齢者福祉事業に取り組んでいます。そして、子どもや若い親世代への食農教育にも力を入れています。土に触る、動植物を育て親しむことで優しい心が生まれる。つまり情操教育になります。JAが取り組む意義は大きいと考えています。

杉 その通りだと思います。そして、きちんと三食を食べることが大事。心の安定や成長にも食は大切です。近頃、刑務所や少年院を回って感じるのは、落ち着きがなく、すぐにカッと頭にくる大人や子どもが増えていることです。信じられないような犯罪もあふれています。戦後、農産物の生産方法や流通形態、そして食生活が大きく変わりました。刑務所の収容者に摂食障害が多いことを見ると、食

対談

栽培してみても、育てることの
大事さを感じています。

をめぐる環境の変化が犯罪発生に何らかの影響を及ぼしていると思えてなりません。

日本農業を魅力あるものに
消費者とともに食と農を守る

中家 ぜひ、国民ひとりひとりに考えていただきたいのは、日本の食料自給率です。カロリーベースで1965年度は73%でしたが、2016年度はわずか38%。海外では和食が非常にもてはやされて、すごくブームになっていますが、肝心な国内で和食離れが進んでいます。

杉 食料自給率は75%ぐらいないと、安心できないですね。もっと多くの消費者に「自分たちが日本の食と農を支えるべき」といった意識を持ってほしい。国は政策として食料安全保障の必要性をもっと強調して、目に見える形で実効性のある取り組みを行うべきです。

中家 スイスでは国民投票により憲法に「食料安全保障の大切さ」を明記することが決まりました。日本は農家の高齢化、担い手不足で、農業生産の基盤が縮小する恐れがあります。10年先を見たときに、何とかしないと日本人の食そのものが危うくなるという危機感を持っています。そこで、食料自給力を高めるためのひとつの方策として、JAは担い手育成、後継者づくりにも力を入れています。

杉 世界的には異常気象が増え、食料不足の時代が来ると予測されています。海外の市場



にも目を向けてはどうでしょうか。また、農産物の「安全・安心」の追求は世界の潮流であり、ベトナムでも関心が高まっています。日本の農業界は高い生産技術があるわけですから、食の「安全・安心」、生産技術で世界のリーダーシップを執ってほしい。海外に日本の農産物の良さを発信する、“応援団”“応援拠点”を設けても良いかと思います。

中家 日本は各国を見渡しても、「安全・安心」が高い水準で確保されていると自負しています。これを強みにして輸出することは、農業振興の大きな力になるはず。JAグループは農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化の実現に向け、総力を挙げて自己改革に取り組んでいます。そして、国産を食べようという運動が盛り上がってくれば、農業はもっと元気になるでしょう。

杉 そうですね。JAのこれからの取り組みには、大いに期待していますし、私も応援団として一緒に頑張りたいと思います。